

## ビジョン連携推進会議第三分科会 第3回 開催概要

日 時	平成 27 年 11 月 25 日(水)
テーマ	多様な主体と連携した地域づくり 論点整理（案）について

### 議事要旨

#### ○ 意見交換

- ・ 人によってやりたいもの、つながりたいものは違う。多様な目的で活動する団体がたくさんあり、その目的により、担い手自体も一つの団体にこだわるのではなく、様々な関わりを地域の中で持っていくということが必要。
- ・ 地域活動の切り口は、「地縁・志縁」、「組織化・非組織化」、「時限性・継続性」などで類型化できる。
- ・ 地縁型は、土地など住んでいることによるつながりであり、世代に偏りがなければ、担い手は順次供給されてくる。一方、新興住宅地のように世代に偏りのあるエリアは、一斉に高齢化したとき、コミュニティ組織のあり方や存在自体が危ぶまれることもある。
- ・ 地縁型の従来からのコミュニティである町会や自治会などに転入者や若い世代が根づかない問題があるが、防災や治安など、幅広い世代や団体が関心の高い話題で関心を持ってもらうことも有効である。
- ・ 志縁型は、地域の課題に着目をして、課題を解決したい人たち（志を持った人）の集まりであり、緩やかな組織化が図られている場合は、活動が継続しやすく、後継者も育ちやすい。
- ・ 地域課題を解決したいと漠然とと思っている潜在的な人（担い手）を活動につなげることが難しい。活動している団体が、どういう活動をしているのか、わかりにくい面もあるとともに、活動している団体同士も集まる機会が少なくそれぞれの活動を把握していない。各団体が、それぞれの活動について説明し、潜在的な人（担い手）を勧誘する場が有効ではないか。
- ・ 担い手と団体を結ぶ中間支援団体の役割は非常に重要で、そういう組織が各分野でたくさん出てきて、最終的には行政がそれらを取りまとめるという形が良いのではないか。
- ・ 「よそ者・若者・ばか者」と言われるが、それだけで成功したかは疑義があるが、内部の人間だけだと、固定した評価になりがちで、外部の人間が入ることで視座を変えることができる。積極的に域外の方を活動に参画してもらうことは重要。
- ・ 多摩地域の方は、移住者が多く、外の感覚を持っている。もともと、その地域の人ではないということは、ある意味プラスにもマイナスにもなる。通勤・通学で、複数の自治体を見ることで外の感覚があり、可能性としては高いが、それが当たり前になり、むしろ根となる部分がなかったりする。